

子ども第三の居場所ちんじゅのもり拠点 2023年度事業報告書 (特非)創作クラブGrian

子どもの自立を目的とした体験を通じた学び

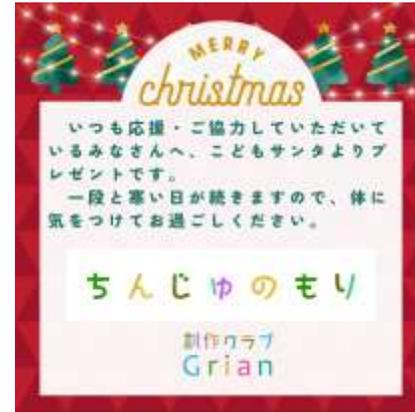
日常的に家庭の中での役割を持てることを想定したこどもキッチンでは、夕食づくりを行うだけでなく、地域の方を講師とした畑づくりからの野菜栽培、食器の準備、配膳、片づけ、掃除まで一連の作業をこどもキッチンのプログラムにして取り組むようにした。感染症対策や家族の生活リズムの多様化により、食卓を囲んで一緒にごはんを食べる習慣が乏しい世代の子どもたちは、ごはんを食べながら今日のことを話したり談笑することも遊びと同様に楽しんでいる。



地域とのつながりから広がる交流

今治くるしまライオンズクラブ様からの体験提供で愛媛県ブランド米『ひめの凜』の田植えと稲刈りに参加。今年は外国ルーツの家族の参加もあり、国際交流にもなった。

また、日頃子どもたちへ頂いた支援を地域へ還元する敬老の日クッキー作りやこどもサンタを実施。ちんじゅのもりでの楽しい活動も知らない方からの支援で成り立っていることへの気づきと感謝、地域還元を目的とした。



生活している地域から学ぶ

地域のイベントを活かして住んでいるところで何がありどんな人が関わりながら創り上げているのかを取材しながら学ぶことも記者体験。今治伯方島トライアスロン大会前日にトライアスロン実行委員会である行政の担当者の方に舞台裏を案内してもらい、大会を支えるボランティアから設営、メカニックなどさまざまな職業を知ることができた。招待選手であるパラアスリートや全国から参加する選手への個別インタビューも行った。会場のスケールの大きさに保護者も地域のことを改めて知る機会になった。



家庭でも学校でもできない体験を多世代で

今治伯方島トライアスロンエイドステーションボランティア



大三島 おやまの暮らし体験
移住家族から学ぶ暮らし 島嶼部、陸地部の家族交流



大学生・高齢者もボランティア参加

移住・外国ルーツの子どもたち・子育てについて考えるきっかけ

社会福祉協議会共催 多文化共生プロジェクト 『ちんじゅのもりに集まれ』
ボランティアグループ、民生委員、老人会、防災士有志、地域住民、子育て世帯が日本、フィリピン、インドネシアの文化を伯方島で生活している住民の生活背景を知り交流した。ちんじゅのもり保護者がスピーカーとして参加し、伝統行事や家庭料理を紹介した。



手づくり料理や海外のお菓子



豆まきを実施

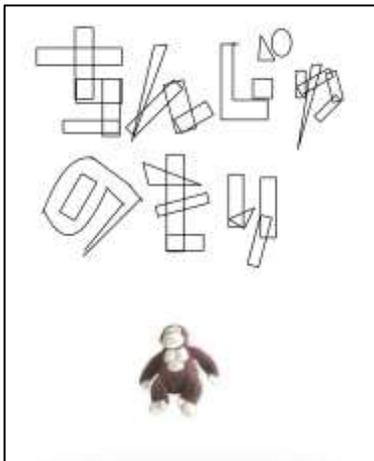


子どもを育むフィールドはより広く

自分の体験を通して知ることによって新しい興味や探求心につながるきっかけづくり。
ボランティアの移住者からipadでお絵描きや画像加工を教わったり、島の外の地域を知るために大三島の参道をipadで写真を撮りながら散策したり、新しいことと歴史のある古いことの双方を学ぶ機会を提供。



子ども目線の撮影
テーマ：伯方島にはないおもしろいもの



ipadで加工

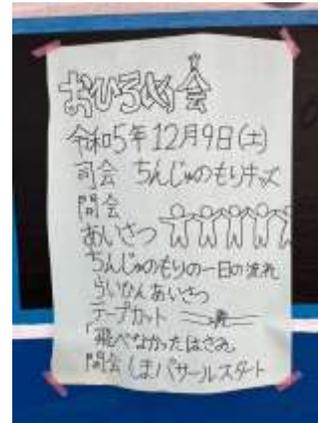
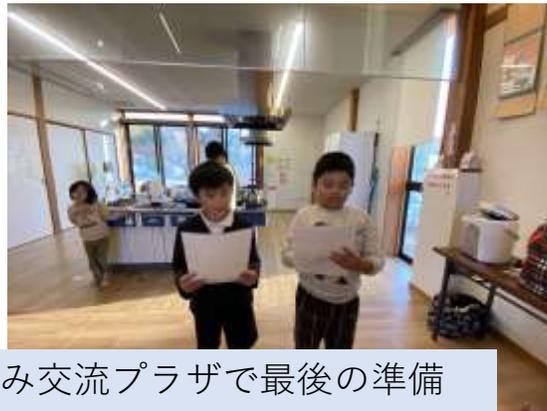


子どもたちの得意なことを生かしたおひろめ会

拠点の改修工事を終え、地域へ新しい鎮守の杜と送迎車“ちんじゅのもり号”のおひろめ会を実施。子どもたちとしたいことを決め、ポスター準備、スピーチ、ダンス披露、ルームツアー、テープカットなど役割を決めて子どもと大人とみんなで協力して行った。家族ぐるみでスピーチ原稿の英文チェックや練習を重ねてくれた。



仮拠点のしまなみ交流プラザで最後の準備



ちんじゅのもり号おひろめテープカット
日本航空飛べなかつたはさみ



ルームツアー用旗



当日リハーサル

